
回転

游太

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

回 転

【Nコード】

N 8 5 7 0 M

【作者名】

游太

【あらすじ】

男の子3人組が寿司を食べるだけのお話、ただし2人は食ってねえみたいな。

何年か前にブログで公開したもの。

「すいませーん、中トロ、サビ抜きで」

まだ食うのか。

未だ食欲の衰えない秀人^{しゅうじん}を呆れと驚きをもった眼で一瞥し、敦士^{あつし}はまた静かにあがりを啜った。

前々からその意外性については優真^{ゆうま}から聞いてはいた。

だがまさか、こんなに大食いだとは。

秀人の周りに山のごとく積まれた皿を、敦士は無意識のうちに目で数えていた。

二十三枚。

次いで壁の時計に目を走らせる。席についてまだ十分ほどしか経っていない。

早食いだとは聞いてなかった。

「ホタテください。サビ抜きで」
ええ。

秀人はこういった場所に慣れているらしかった。平気な顔で注文を繰り返し、そして常に「サビ抜き」なのがなんとなく微笑ましい。よく出来るよな、と敦士は思う。

自分の意思を率直に伝えられることが、正直に羨ましいと思う。

秀人が特別というわけではなく、それが誰にとっても「当たり前」なのだとわかつてはいるが。

自分には、出来ない。

つか、それ以前の問題だよなあ

敦士は目の前を通り過ぎて

いく寿司をぼんやりと眺める。

「あつくん、どうしたの？ お腹空いてない？」
「え、」

そんなことは、と答える前にそういう顔をしていたのだろう、「でも全然食べてないじゃん」と秀人は続けた。

「あつくんも少食？」

秀人は軽く首を傾げる。

「も」、というのは優真を表している。「弟に胃袋とられたんじやねえの」などと言われるほど、彼はそういう点では秀人にまったく似ていなかった。今も寿司にはほとんど手をつけていないように見える。

「んー……、」

そりやお前にくらべれば少食だけど という言葉を読み込んで、敦士は言いよどむ。さて、どう説明したらいいものか。

「 回転、」

「うん？」

「回ってるじゃん、スシが」

「そりゃー、回転寿司だからねえ」

「だからさ、……わかんなくて」

「なにが？」

情けないやら恥ずかしいやらで、敦士はなかなかその先が言えない。

秀人はわからないと眉根を寄せ、優真も何事かと視線を向ける。追い詰められた敦士は微かに顔を赤らめて、やっと口を開いて、ぼそりと、

「手を出す、タイミング、が……」

「すいませーん、ちょっと回す速度下げてください」

「つや、いいから、」

「てか、いつそのこと止め」

「いいから！」

「馬鹿、止めたら回ってこないだろ」

「あー、そっか」

「頼んでやろうか？ 何が食いたい」

「だからいいって、」

「おじさん、今日あるネタぜんぶ」

「いい！ 大丈夫だから！」

今度は回らないところに連れてってあげるね。

さわやかに笑う秀人を見てちょっと泣きたくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8570m/>

回転

2010年12月31日18時41分発行